



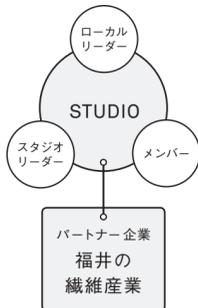
XS XSTUDIO



X^S XSTUDIO

福井の文化や風土を紐解き、社会の動きを洞察しながら、
広義のデザインの力を生かしてともにプロジェクトをつくる「XSTUDIO」。

あらゆる分野・枠組みを横断することで新たな価値を生み出し、複数の役割や関係を紡いでプロジェクトを実現する「デザインの力」がますます求められる社会を見据え、横断的かつ包括的な視点で事業・プロジェクトを共創する実践的プログラム「XSCHOOL」は2016年秋、福井市ではじまりました。3年目を迎える2018年度は、これまでの枠組みを再編し、3つのスタジオ形式で展開。異なる専門性をもつスタジオリーダー、福井を拠点とするローカルリーダー、繊維にまつわるパートナー企業、全国から集うさまざまな専門性をもつメンバーが、福井の基幹産業「繊維」を探索フィールドに約120日間にわたり、対話と実験を繰り返し、新たな事業・プロジェクトを構想しています。



探索領域



福井は化学繊維を中心に、グローバル企業から家族経営の工場まで、さまざまなジャンルと規模の企業が集積する、国内有数の繊維産地です。2018年度のXSTUDIOは「繊維」を探索領域に、ファッションから工業、環境、ライフサイエンス、宇宙産業領域まで広がるその集積と可能性を探り、新たな事業・プロジェクトの構想を進めてきました。

1000年をこえる
繊維のまち、福井

古代よりこの地でつくられていた絹織物は、江戸時代には藩の財政基盤を支える産業に成長していました。明治にはいち早く欧州の最新技術を取り入れて近代化し、昭和戦前には人絹（レーヨン）の生産が始まります。戦後はナイロンやポリエステルなど合成繊維の一大産地に。産業構造、経済情勢が変化した現在も、革新と伝統のもののつくりは脈々と息づき、先端領域ともつながって発展を続けています。

パートナー企業



明林繊維株式会社
Meirin Senri Co., Ltd

北陸産地を軸に再生セルロース繊維（レーヨン、アセテート、キュブラ）を中心とした繊維メーカーとして事業を展開。工程の最初から最後までを国内生産にこだわり、商品企画から原糸の仕入れ、燃糸、製織、染色加工までをまもる産元産社として、常時60社以上と提携しながら独自のテキスタイルを送り出している。

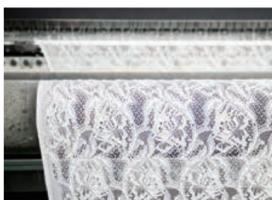
<http://www.meirin-seni.co.jp>



ジャパンポリマーク株式会社
Japan Polymark Co., Ltd

接着技術を用いた「熱転写ラベル」における国内トップメーカー。主力の衣料分野ではサッカー日本代表ユニフォームなどのスポーツウェアから、あらゆるブランドのロゴマークに採用されているほか、産業分野では自動車用資材などデザインに加え機能性を与える素材としても用途が拡大している。

<https://www.polymark.co.jp>



荒川レース工業株式会社
Arakawa Lace Co., Ltd

編みレースの国内トップシェアを占める福井産地において、一貫生産により高品質でバリエーション豊富なレース生地を製造する専門メーカー。過去に生み出した膨大な編みパターンをアーカイブから次の製品開発につなげることができるとの強みとし、デザイナーやアーティストとのコラボレーションにも積極的に取り組んでいる。

<http://www.arakawa-lace.com>

process

9月末から1月1日、福井に集まりワークショップを実施。期間中はオンラインでも議論や試作を重ねていきました。

7/29・31・8/8
募集説明会@大阪・東京・福井
スタンダードブックストア心斎橋
/100BANCH/加藤ビル

DAY 3・4@福井
10/27-28



DAY 7・8@福井
12/8-9



PRESENTATION&EXHIBITION@東京・福井

1/27
PRESENTATION@東京
東京ミッドタウン日比谷 6F・BASE Q
ゲスト：
伊藤亜紗（東京工業大学 リベラルアーツ研究教育院准教授）
白水高広（株式会社うなぎの代表 代表取締役）
若林恵（編集者/黒鳥社 bkawn publishers）

2/9
PRESENTATION@福井
NICCA イノベーションセンター

ゲスト：
伊藤ガビン（編集者/「NEWREEL」/「マンパ通信」編集長）
田子学（デザイナー/MTDO Inc. 代表取締役）

2/10-12
EXHIBITION@福井
えちぜん鉄道福井駅構内

DAY 1・2@福井
9/23-24



DAY 5・6@福井
11/10-11



column

さまざまな専門性をもつ方々に見守られながら進化したXSTUDIO。たくさんのオブザーバーから、研究者のお二人にご寄稿いただきました。

誰かと出会い続けるためのデザイン

比嘉夏子
北陸先端科学技術大学院大学助教

文化人類学者。フィールドはオセアニア島嶼。近年はエスノグラフィの手法を用いて企業のためのリサーチにも携わる。

「デザイン」や「ものづくり」という営みの中心には、当然ながらいつもモノがある。作り手やデザイナーは、目の前の素材や状況と対話し、自身の技術や感性を投入し、漠然としたイメージを、あるひとつの形へと落とし込む。そのようにして形を成したモノが放つ魅力と、人々の関心とが交差し、呼応するところから、人間の行為が立ち上がっていく。

さて、このXSTUDIOという実践からは、何が生まれたのだろうか。ヒトを通して世界と向きあってきた私は、繊維という産業にも、福井という土地にもまったくの門外漢だったけれど、ここでメンバーたちが繰り返している実験的な試みは常に真剣で、それだけで楽しそうで、とても興味深かった。

ここで生じていたのは、「出会い」の連鎖だ。この120日間は、彼らが未知なる物事と全力で出会い続けた日々であって、それはまるで、人類学者が遠く離れた土地で調査をするときのように、想像を超えるような出来事や人々との出会い、戸惑い、

やがて何かを感じとり、理解していこうとする過程だった。

XSTUDIOのメンバーは、多様なバックグラウンドを持つ人々と出会い、繊維産業や福井に関わるプロフェッショナルと出会い、それまでほとんど触れたことなかった素材に目を輝かせ、初めて耳にする技術や、新たな知識を柔軟に吸収していった。彼らが素材と技術と身をもって対話するとき、それはいつも素直な感動に満ちていた。なめらかな布の手触りをひとつひとつ確認し、レースの穴から世界を覗き、織機から響く軽快なリズムのなかに身を置き、無造作に積みあがった布の重みを知った。福井の郷土食をつくっては舌鼓を打ち、ともに街を歩き、土地に想いを寄せた。

こうして五感を伴う数々の出会いとその過程での試行錯誤から得られた感動を、他の誰かにもぜひ伝えたいという想いが、少しずつ形を成していった。それもまた、遠い土地での鮮烈な経験をなんとかして描き伝えようとするときの私の歩みと、どこか似ている。

濃密な出会いの積み重ねから生みだされたモノたちは、また新たな人々との出会いに向けて、扉を開いていくのだ。

STUDIO A



- 明林繊維株式会社 Meirin Senri Co., Ltd (村上貴宣 Takanobu Murakami / 木村真也 Shinya Kimura / 高橋都美 Natsumi Takahashi)
- 杉本雅明 Masaaki Sugimoto (起業家/エレファンテック株式会社副社長) [東京都在住]
- 新山直広 Naohiro Niijima (デザイナー/TSUGI 代表) [福井県在住]
- 李受慧 Suehye Lee (紡織会社研究員) [神奈川県在住]
- 角舞子 Maiko Kado (プランナー、ライター) [福井県在住]
- 瓦井良典 Yoshinori Kawarai (デザイナー) [大阪府在住]
- 新谷聡子 Satoko Shinya (大学生) [東京都在住]
- 田嶋宏行 Hiroyuki Tajima (道具デザイナー) [福井県在住]
- 目黒幸太 Kota Mese (デザイナー) [東京都在住]

パートナー企業 [R] スタジオリーダー [O] ローカルリーダー

TEXTILE INVITATION



再生セルロース繊維に強みをもつ産元産社・明林繊維株式会社をパートナーに、生地をめぐる新たなコミュニケーションのかたちを提案。生地サンプルに掲載される情報や形状のリデザイン、生地との新たな出会いの場の創出、ワークショップの開催、メディアの発行などの試みを構想。ファッション業界以外のつくり手にも繊維の魅力を伝え、これまでにない使い方が自然と生まれる環境整備を試みる。
<https://itoteki.com> <http://textile-invitation.com>

HIGHLIGHT

2018.11.11

スタジオ活動日、持参したのは普段作業しているスタバでもらったコーヒー豆の紹介カード。そこからコーヒー→3rd wave、山梨のぶどう酒→ワイン、福井の布地→！！、そうか！布地をワインのように楽しめるようにすれば面白くなる。そう気づいて視界が開けた。(杉本)

STUDIO B



- ジャパンポリマーク株式会社 Japan Polymark Co., Ltd (山本和紀 Kazuki Yamamoto / 齊藤康文 Yasufumi Saito / 吉川悠希 Hiroki Yoshikawa)
- 萩原俊夫 Shunyu Hagiwara (Webデザイナー/プログラマー) [東京都在住]
- 森一貴 Kazuki Mori (コンサルタント、探究型学習塾兼キャンパス代表) [福井県在住]
- 加賀川葵 Aoi Kagawa (ランジェリーデザイナー) [福井県在住]
- 角田有 Yu Kadota (元ギャラリー運営) [兵庫県在住]
- 木下佳祐 Keisuke Kinoshita (Web マーケター) [東京都在住]
- 佐保頌子 Shoko Sabo (繊維製造企業企画営業) [福井県在住]
- 湊七海 Natsumi Minato (大学生) [東京都在住]
- AFILIATE MEMBER 鈴木康洋 Yasuhiro Suzuki (プロダクトデザイナー) [東京都在住]
- 森敏郎 Toshiro Mori (プロダクトデザイナー) [福井県在住]
- GRAPHIC DESIGN 吉鶴かのこ Kanoko Yoshizuru (グラフィックデザイナー) [大阪府在住]

ばらばらなものを新しい関係をつくる「ハイパーリンク」を見つけだす

熱転写ラベル分野の国内トップメーカー・ジャパンポリマーク株式会社をパートナーに、「くっつける」をキーワードに掲げ、一見結びつかないさまざまな分野や関心をつなぐ「ハイパーリンク」を提案。景観の地産地消を提案する屋外照明、越前和紙の技術研究、持続可能なアーティスト・イン・レジデンス企画など、メンバーの興味・関心を起点に、5つのプロジェクトが同時多発的に生まれている。
<https://www.xstudio-b.com>

HIGHLIGHT

2018.9.23

メンバーそれぞれが持参したものに熱転写を体験して大興奮。服やサコッシュ、ノートなど、どんなものにも接着できると実感できた瞬間がアイデアの転換点だった。のち、ジャポリ社の技術は、「接続詞」のようなもの。主語はあくまでも自分たち。連詞は嬉しいけど、くっつける技術が広がる可能性は大きい！(萩原)

STUDIO C



- 荒川レース工業株式会社 Arakawa Lace Co., Ltd (荒川拓磨 Takuma Arakawa / 荒川道子 Michiko Arakawa)
- 吉行良平 Ryohei Yoshiyuki (プロダクトデザイナー/吉行良平と仕事) [大阪府在住]
- 坂田守史 Morifumi Sakata (ディレクター、プランナー/株式会社デザインスタジオ・ピネン) [福井県在住]
- 高野麻実 Asami Takano (建築士) [福井県在住]
- 矢達子 Ryoko Togari (アパレル生産管理) [大阪府在住]
- 長岡勉 Ben Nagaoka (デザイナー) [東京都在住]
- 前田裕斗 Yuto Maeda (メーカー研究開発員) [東京都在住]
- 宮下友孝 Tomotaka Miyashita (化学メーカー開発営業) [神奈川県在住]

レースの「よさ」について考える ARAKAWA LACE LAB.

インテリアを中心に編みレースの世界を広げる荒川レース工業株式会社をパートナーに、レースの「よさ」を見つめ直し、新たな可能性を提案。ひたすら手を動かしながら「よさ」の理由と素直に向き合い、感覚の考察と言語化を行き来しながら試行錯誤を重ねる。レースの柄の“地”にあたる「地組織」に着目し、暮らしに寄り添う道具の開発、継続して研究開発するための ARAKAWA LACE LAB. を発足。
<https://xstudio-c.tumblr.com>

HIGHLIGHT

2018.11.11

3回目のスタジオワークでは、これまでつくってきたプロトタイプを見せあいながら、全員で「よさ」について話し合った。レースの「よさ」を探索するプロジェクトへのまざしが、みんな同じ方向を向いているのを感じて、いいプロジェクトになることを確信した。(坂田)

開かれた福井産地への第一歩

大田康博
徳山大学経済学部教授

福井をはじめ日本各地の繊維産地で実地研究を行う。また、アカデミズムと実業をつなぐ「テキスタイル産地ネットワーク」も主宰。

日本の化学繊維産地は、北陸を中心に形成され、福井はその一角を占める。高い技術力で国際的に知られてきたものの、福井を含め、業界全体としては縮小が続き、職人の高齢化が進みつつある。他方で、繊維品の生産・消費・廃棄がもたらす健康や自然環境への悪影響が世界的な問題となっている。しかし、繊維産地では、従来の価値観や仕組みが、新しい市場機会の創造や社会問題への対応を制約してきた。かつて繊維品の生産は私達の暮らしに最も身近なものだったが、今や最も縁遠い産業の一つになってしまった。素材が何なのか。それがどこからきて、どのようにして生地や製品になり、我々の手元に届いているのか。こういったことを体験的に理解する機会が乏しい。XSTUDIOの活動は、それらをスタジオ・メンバーで確認することからはじまった。

パートナー企業の方々にとって、他のメンバーは、ある意味「宇宙人」だっただろう。彼ら/彼女らは、膨大な生地が並ぶ

薄暗い倉庫で感動する。化学の専門家には当然の実験結果を無邪気に楽しむ。レース機械の編立装置ではなく、並んだ大量のポピンを見て歓声を上げる。そんなメンバーの姿に一種の戸惑いを示すパートナー企業の方々の様子を、何度も見えた。

しかし、活動が進捗するにつれ、各メンバーの着想やスキルに驚き、このプロジェクトに未来を感じたとき、パートナー企業の方々も「前のめり」になったように思われる。しかも、パートナー企業同士が普段の業務で競合しないため、スタジオ間でも情報を共有し、製品や設備を融通する光景がしばしば見られた。XSTUDIOにおけるメンバーの非競合性と補完性は、他の産業振興・人材育成でも参考になるだろう。

さて、発表会での表現はどのようなものとなっているだろうか。みなさんの目の前にあるものは、単なるプロダクトの陳列ではなく、各スタジオの個性やこれまで感じた楽しさの一端を共有できるものであるはずだ。そして、みなさんも是非、パートナー企業を訪れ、この環に加わってほしい。XSTUDIOを経験したパートナー企業は、素材な驚きや感動の言葉にも、きっと耳を傾けてくれるだろう。